—特集—

# 思いやり運転—

## 高齢者の交通事故をなくす鍵

高齢ドライバーが起こす死亡事故が各地で相次ぎ、大きく報道されています。国も喫緊の課題として取り組み、3月には75歳以上のドライバーに対する認知機能検査の強化を柱とした「改正道路交通法」を施行します。

認知症による事故の防止が期待される一方、生活に車が欠かせない山間部に暮らす高齢者からは「まだ車を手放せない」と、不安の声も聞こえてきます。高齢ドライバーの問題は、公共交通の利便性の向上や周囲のサポートなど、さまざまな課題を抱えているのです。

今の社会の流れを変えるのは容易ではありませんが、気持ちの持ち方だけで減らせる事故はあります。今回の特集では、高齢ドライバーの実情とおもいやり運転について考えます。

# まず、考えよう――なぜ交通事故は起きるのか

**「今まで大丈夫だった」と油断して最初の事故が、死亡事故――そんなことにならないよう、常に緊張感を持って運転してほしい**

愛媛県大洲警察署
交通課長
前田　俊樹（とし き）さん

28年10月、横浜市港南区で発生した事故――。小学生の列に軽トラックが突っ込み、小学1年の男児が死亡、児童4人を含む6人が負傷しました。運転していたのは87歳の男性でした。このような高齢ドライバーの重大事故が相次いだことから、75歳以上の運転者への認知機能検査を強化する「改正道路交通法」が施行されます。

## 実は減っている死亡事故

全国の交通事故死者数は減少傾向にあり、28年には67年ぶりに4000人を下回りました。最も多かった昭和45年と比べると約4分の1に減っています。要因には、飲酒運転やシートベルト着用などの規制強化、自動車技術の進歩があります。死亡事故は減りましたが、交通事故はそれほど減っていないというデータもあります。

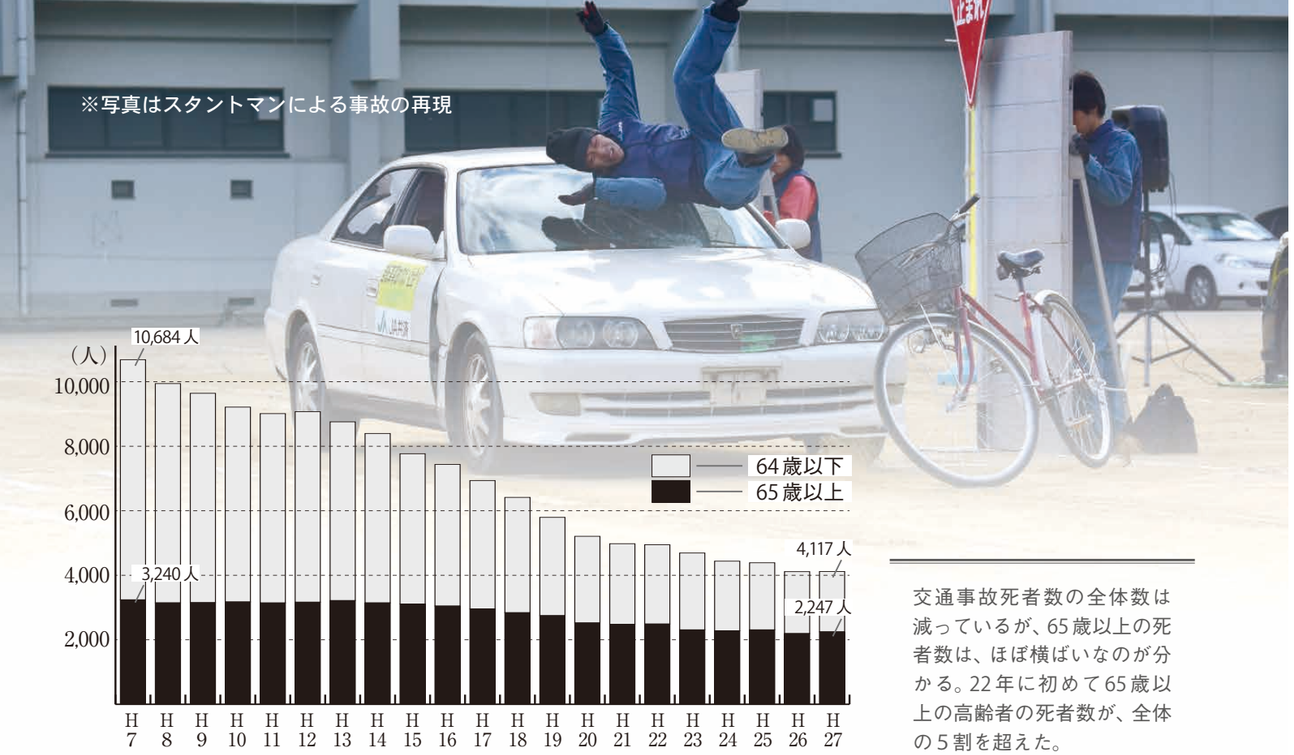
実は65歳以上の死亡事故も、少しずつ減っています。高齢ドライバーが増えていることや、高齢者の死亡事故数が全体数を押し上げていることもあり、対策が必要となっているのです。

愛媛県では28年中、交通事故で77人が亡くなり、その内54人が65歳以上の人でした。また大洲署管内では192件の人身事故が発生し、その内105件は65歳以上の人が起こしました。高齢者が事故の加害者になるケースも増えています。

## 怖いのは「加齢」より「過信」

交通事故の主な原因は、緊張感の欠如や安全確認不足です。無事故・無違反で年齢を重ねると、それが自分の運転に対する自信になります。高齢の運転者ほど「私は大丈夫。事故に遭わない自信がある」と思っています。年齢に関わらず「過信」や「慣れ」は、安全確認をおろそかにし、事故につながります。

事故経験のない高齢ドライバーは、多くの人が自分の感覚で大丈夫と信じています。しかし年齢とともに判断能力は低下するので、運転の危険度は年々増しています。そして実際の交通事故は複数の危険が重なって起こるもの――。「自分は大丈夫」ではなく、「相手は大丈夫かな」と思いやる運転も大切です。




参考：交通事故死者数の推移

交通事故死者数の全体数は減っているが、65歳以上の死者数は、ほぼ横ばいなのが分かる。22年に初めて65歳以上の高齢者の死者数が、全体の5割を超えた。

## 交通事故多発箇所

大洲警察署がまとめた人身事故の多発箇所を参考に作成。25～27年に発生した事故件数から、内子町内の危険箇所のワースト5位をお知らせします。（件数が同じ場合は、交通量の多い方が上位。物損事故は含まれません）

### Worst 1 知清橋交差点付近

**11件** 追突事故が多い。松山方面から来る場合、市街地入口の最初の信号になるため、前の車が減速したときに気付くのが遅れる。脇見運転が原因になることも。

### Worst 2 内子郵便局付近

**6件** 夕方に追突事故が多い場所。買い物や仕事の帰りで、集中力が散漫になる時刻。56号線に出入りする車が多いので、早めのライト点灯を心掛けること。

### Worst 3 豊秋橋東側付近

**6件** 細い道から出る車が、安全確認や一旦停止を怠ると、出会い頭の事故を起こす可能性が高い。本線を走る車も、少し減速するなどの対策が必要。

### Worst 4 内子分庁付近

**3件** 店舗などから国道56号線に出る車の事故。交通量が多いため、車と車の切れ目を探して右折。慌てて出るため、左右を十分に確認できないことが原因。

### Worst 5 ＪＡ五十崎支所交差点

**3件** 信号無視による出会い頭の事故が多い。交通量が少なく、見通しがいいため、信号の変わり目で加速する車が事故を起こす。信号が青でも左右の確認を。

3月12日から施行される「改正道路交通法」では、75歳以上のドライバーが免許更新の際に受ける「認知機能検査」が強化されます。また信号無視や通行区分違反など、認知機能が低下したときに起こりやすい違反行為をしたときには「臨時認知機能検査」を受けなければなりません。それらの検査で「認知症の恐れがある」と判定された人は、医師の診断が義務付けされます。認知症と判断された場合は、運転免許の取り消しなどの対象になります。

そこで、自治センターや保健センターの協力でアンケートを実施。高齢者の運転について100人に聞きました。回答したのは男性33人、女性67人で、平均年齢は75歳でした。

集計結果から7割の人が免許を保有し、返納は1割にとどまることなどが分かりました。生活に車が欠かせない山間部なので、免許を手放すのは難しいようです。返納する年齢については「年齢ではなく、個人の運転能力で判断するべき」という意見が目立ちました。高齢者の事故をなくすためには、「危険運転をすぐに察知できる」「安心して自主返納ができる」、見守りの環境を整えることが重要です。

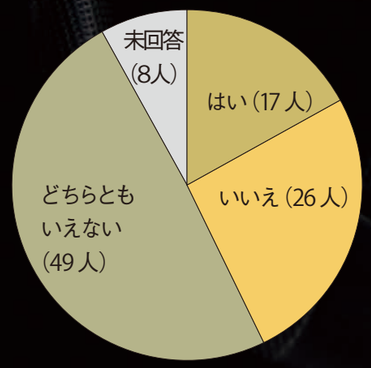
―― 60歳以上の人に聞きました ――

# このハンドル、手放せますか

「認知機能検査」の強化が始まります。
事故防止が期待される一方、車は私たちの生活に欠かせないもの――
これからもっと増える高齢ドライバーについて考えるため、
高齢者100人へのアンケートと自主返納支援制度を紹介します。

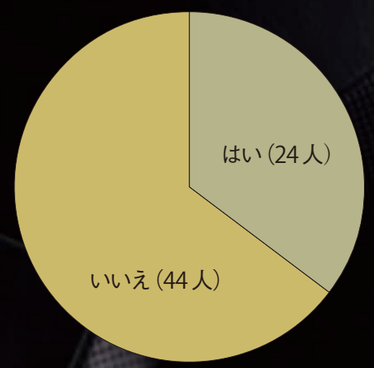
■高齢ドライバーについてのアンケート結果（広報・広聴係調べ）

**問** 75歳以上の人は免許返納をした方がいいと思いますか



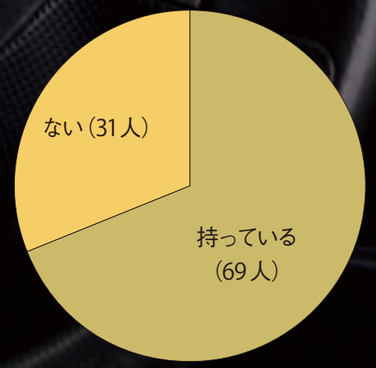

「いいえ」の理由は「日常生活に困る」が多数。約5割の「どちらともいえない」人も、理由が「不便になる」「人による」など、多くの人が返納には慎重でした。

**問** 自分の運転を危ないと感じることはありますか




免許を持っている人の内、約3分の1が「ある」と答えました。今の年齢より、4～5年前から感じ始めた人が多く、60歳ころからという人もいました。

**問** 自動車やバイクの免許を持っていますか




85歳以上の人では13人中、5人が免許を持っていました（最高齢は90歳）。持っていない人の内、11人が免許を自主返納。67歳で返納している人もいました。



内子交通安全協会副会長
池永　寿子（としこ）さん＝内子7＝

＼安協も支援します／

## 自主返納支援制度を広めて高齢者の不安を共有したい

大きな事故を未然に防ぐために、運転免許証の自主返納は、重要な選択肢の一つです。返納を考えている人を後押しするために、少しでも返納しやすい環境を整えることが大切です。

内子交通安全協会では返納した人が「良かった」と思えるよう、事業者や行政と協力してメリットを増やしたいと考えています。自主返納支援を通じて、みんなで免許を返納した高齢者のことを考えたり、高齢ドライバーの皆さんが、自分の運転の技量を顧みたりするきっかけになればと思います。

亀岡　清住（きよずみ）さん＝上村＝

＼自主返納しました／

## 早めの返納で安心――でも、まわりの支えは必要

娘に「危ない」と言われたのがきっかけで、85歳のときに自主返納しました。無事故・無違反で運転は大丈夫でしたが、免許を返した日は肩の荷を下ろす感じがしました。今は、事故を起こす前に返して良かったと思っています。

家族の支えもあり、不便は感じていません。でも知り合いには、買い物へ行くのも大変という人がいます。足が不自由な人はもっと大変です。免許は早めに返した方が安心ですが、その後の暮らしが不便ではダメです。早く安心して返納できるようになればいいですね。

## 運転免許自主返納支援制度をご存じですか

運転免許証の自主返納制度は、「運転に不安を感じている」「もう運転しない」という人が、自主的に免許を返納できる制度です。

大洲警察署管内では自主返納を支援する事業所が、免許を返納した人に対して商品購入の割引、バス割引券の贈呈、サービスポイントの優遇など、さまざまな特典をつけています。

**◎自主返納支援の受け方**

運転免許センターまたは大洲警察署・内子交番に、有効期間内の運転免許証と印鑑を持参して、返納の手続きをしてください。運転経歴証明書など、自主返納した証明を渡します。支援事業所などが指定する証明書類を提示して、特典を受けてください。

**◎運転経歴証明書**

免許証に変わる身分証明書として、生涯使うことができます。自主返納時に申請することで、受け取れます。内子交通安全協会では、会員限定で運転経歴証明書の発行手数料1,000円の半額を補助しています。ぜひご利用ください。

運転免許証と同じデザインの「運転経歴証明書」。使用する写真を、無料で撮影するサービスもしています。

**【問い合わせ】**
大洲警察署交通課　☎0893（25）1111

# 広がれ、思いやりの心――

運転免許を持っていない人や返納した人には、周囲のサポートが不可欠です。
また山間部に住む人たちにとって、車はなくてはならない大切なものです。
誰もがいずれは高齢者。他人事ではありません。
みんなが安心できる社会を目指して、思いやりの心を広げましょう――

城戸　實男（じつお）さん
冨子（とみこ）さん
＝山鳥坂＝

**こんな山奥やけん、車がないと困ることばかり――衰えは感じるけれど、乗れる間は乗らせてほしい。**

山鳥坂地区は旧御祓小学校から、車で20分ほど山道を登ったところにあります。養蚕が盛んだった昭和40年頃は16戸の集落でしたが、今は4戸のみ。城戸實男さんは、妻の冨子さんと二人でこの地区に長年住み続けています。今年83歳になる高齢ドライバーです。

「へき地なんで、車は生活の一部。ちょっと用があるときも車がないといけん――」と自作の薪ストーブにあたりながら、話し始める城戸さん。「車を使うときは栗の栽培や草刈り、買い物など。あと、妻が大洲に通院してるから、毎週1回は大洲に通いよる。デマンドバスは日時が合わんけん、使えんのよ。他に住むところもないけん、免許がなくなったら大変」と心境を吐露します。

高齢者の交通事故が多いことについては「私はまだまだ運転できるけれど、若い頃に比べたらだいぶ落ちた。夜間はなるべく運転せんようにしよる。周りの人たちが、危ないと心配するのも分かるけれど、事情もあるので、乗れる間は乗らせてほしい」と訴えます。

最後に城戸さんは、「免許更新の検査は難しい。更新ごとに成績が落ちよる。趣味のものづくりや薪割りをして、元気でおらんといけんな」と笑顔を見せてくれました。

～・～・～・～・～・～・～・～・

高齢者の交通事故の背景には、さまざまな課題があります。安全のために運転を止めるときは家族の支えが必要です。利便性のために運転を続けるときは、自己管理などの責任を負うことになります。そして忘れてはいけないのが、「事故を起こすのは高齢者だけではない」ということ――。運転もまちづくりも、相手への思いやりが大切なのではないでしょうか。

1_山鳥坂の風景　2_城戸さんたちの生活に欠かせない薪。薪割りが元気の秘訣　3_雪道を走る。この地域の雪はなかなか溶けない　4_ハンドルを握るのは實男さん。「雪道も慣れたもんよ」

## 高齢者の足を支える事業者に聞きました

### 移動販売

セブンイレブンＪＡ五十崎支所前店
店長　篠﨑　耕太郎（こうたろう）さん

セブンイレブンJA五十崎支所店前では、移動販売車「セブンあんしんお届け便・うちこい号」を運行しています。月～金曜日に内子・五十崎地区の山間部・５ルートを巡回するサービスです。

必要な商品を連絡してもらえれば、商品を届ける「御用聞き」もしています。買い物の支援だけではなく、高齢者の見守り活動も兼ねています。買い物がないときも「いらんけん」と言いに顔を見せてもらえたら、安心できます。助け合いの精神を大切にして、地域に根ざした活動を続けますので、ぜひご利用ください。

3_多くの人が利用する移動販売。みんなで楽しそうに話していた　4_セブンイレブンJA五十崎支所前店と店長の篠﨑さん

### デマンドバス

池田タクシー（株）
代表取締役　池田　央（ひろし）さん

デマンドバスは地域の新しい足として期待され、平成22年度から導入されました。人口が減っていることもあり、利用者が年々減っている路線もあります。各家の軒先まで迎えに行くのは便利ですが、時間が掛かってしまうのが課題です。

利用は電話での予約制です。何回も利用していただく内に、互いが理解できるようになるので、予約も円滑になります。運転手さんも顔なじみが増え、楽しんでいるようです。アットホームな送迎なので、運転免許を持っている人にも活用してほしいですね。

1_多くの高齢者が利用。山間部の皆さんの足として、重要な役割を果たしている　2_池田さんとデマンドバス